

診療科
血液内科

疾患名
再発・難治性多発性骨髄腫

レジメ名
DLd療法(1-2コース)

投与間隔
1コース 4週間 計 2コース

商品名	一般名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日									
						day1	day2	day8	day9	day15	day16	day21	day22	day23	
ダラザレックス	ダラツムマブ		16mg/kg/day	div	備考参照	●		●		●			●		
レブラミド	レナリドミド	LEN	25mg/body/day	p.o.		← day1~21連日投与 →									
デカドロン	デキサメタゾン	DEX	20mg/body/day	div(注1)	15分	●	▲	●	▲	●	▲		●	▲	

備考

- ・注1: day1, day8, 15, 22 (●)はデカドロン20mgのdiv、day2, 9, 16, 23 (▲)はレナデックスの経口投与とする。75歳超またはBMI<18.5kg/m²例ではday2, 9, 16, 23の経口投与は省略可。
- ・レブラミドは毒性に応じて15mg、10mg、5mgに調整。Ccr 30~60mL/min例では当初から10mgに減量。Day1、8、15、22はダラザレックス投与前または同時に投与。
- ・infusion reactionを軽減させるために、本剤投与の1~3時間前に抗ヒスタミン剤、解熱鎮痛剤、副腎皮質ステロイドホルモンを前投薬する。具体的には、1時間前までにカロナール1,000mgを内服し、デカドロン20mg+ポラミン5mgのdivを終了する(15分間で投薬後、1時間生食100mLのみとし、その後ダラザレックス)。
- ・気管支喘息や呼吸機能検査でFEV1.0<80%のCOPD例では、2日間はポラミンなど抗ヒスタミン剤の内服、短期間作用型β₂アドレナリン受容体作用薬の吸入および原疾患の治療(気管支喘息では吸入ステロイド±長時間作用型β₂アドレナリン受容体作用薬、COPDではスピリーバやアドエアなどの長時間作用型気管支拡張薬±吸入ステロイドの事後投与)が考慮される。
- ・ダラザレックス投与24時間以降に発現する遅発性infusion reactionを軽減させるため、必要に応じてレナデックス20mgの内服追加を検討する。ただし、ダラザレックス投与翌日にもともとレナデックス投与予定の場合は追加不要。

枝分かれレジメある
379-1:1コース目用(day1の輸液量が多いレジメ)、379-2:2コース目用

登録年月日
2018年 2月 7日

登録No.
No. 379-1,2